

令和6年度・7年度学力向上研究校指定事業

自ら学ぶ生徒の育成

～『わかる・できる 授業の改善』

『楽しい・行きたい 意識の改善』～



すがチュウ

嵐山町立菅谷中学校



菅谷姫

令和5年度 学校の状況

- 全校生徒217名
→そのうちの [] 名が長期欠席者【約 [] %】
(月7日、年間30日以上)
- 「学校は楽しい」と回答する生徒が約 [] %
→毎月の生活アンケートの平均



令和5年度学力状況(県学調より)～レベル比較～

<中1・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R5中1 レベル
埼玉県	356	44,702	63.8	8-C
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中2・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R4中1 レベル	R5中2 レベル	伸び
埼玉県	356	43,512	60.2	8-C	8-B	1
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中3・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R4中2 レベル	R5中3 レベル	伸び
埼玉県	356	43,320	55.5	8-B	8-A	1
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中1・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R5中1 レベル
埼玉県	356	44,677	56.4	7-C
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中2・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R4中1 レベル	R5中2 レベル	伸び
埼玉県	356	43,503	59.0	7-B	8-C	2
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中3・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R4中2 レベル	R5中3 レベル	伸び
埼玉県	356	43,331	60.8	8-C	8-A	2
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中2・英語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R5中2 レベル
埼玉県	356	43,468	53.3	9-C
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中3・英語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R4中2 レベル	R5中3 レベル	伸び
埼玉県	356	43,322	50.4	9-B	10-C	2
市町村教育委員会						
菅谷中						

◆すべての教科で県レベルを下回っていた



自ら学ぶ生徒の育成 ～『わかる・できる 授業の改善』 『楽しい・行きたい 意識の改善』～

令和5年度学力状況(県学調より)～伸びの割合～

1年	国語		数学	
	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
学校名				
埼玉県	60.5	39.5	58.9	41.1
市町村				
菅谷中				

2年	国語		数学	
	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
学校名				
埼玉県	58.8	41.2	62.6	37.4
市町村				
菅谷中				

3年	国語		数学		英語	
	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
学校名						
埼玉県	55.6	44.4	65.2	34.8	68.7	31.3
市町村						
菅谷中						

◆一部の教科で学力を伸ばしている生徒の割合が高かった



課題設定の理由

○令和5年度の課題
…学力向上、不登校生徒の減少

授業がわかることへの喜びや学校が楽しいと感じることが学力向上や不登校生徒減少の一助になるのではないか



自ら学ぶ生徒の育成 ～『わかる・できる 授業の改善』 『楽しい・行きたい 意識の改善』～

課題の共通認識

<学校研究課題>

自ら学ぶ生徒の育成

～『わかる・できる 授業の改善』 『楽しい・行きたい 意識の改善』～

→令和6年度（研究1年目）を終え、令和7年度（研究2年目）を迎えるにあたり、
「自ら学ぶ生徒」「わかる・できる授業」の定義について再確認

“自分自身で考えられる生徒”

という認識を、全教職員で共有



嵐山町立菅谷中学校

研究部会の設置

(1) 授業力向上部会

校内での授業参観週間の設定、研究授業の実施
「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の実施

(2) 学習環境整備部会

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

(3) 調査分析部会

県学調、全学調の分析



研究内容

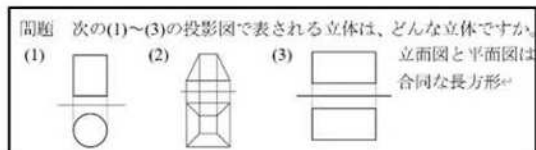
- ①数学科を中心とした指導案検討【授業力向上部会】
- ②全国学調・県学調の分析【調査分析部会】
- ③教室内の環境整備【学習環境整備部会】
- ④生徒質問調査の実施
- ⑤ICT支援員やスクールカウンセラーとの連携



授業力向上部会より

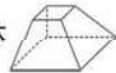
①研究授業の実施

「いろいろな立体」



表される立体

- (1)円柱
 - (2)四角錐で上の部分がない立体
 - (3)正四角柱
- 円柱



めあて:問題(3)の投影図をもとに、理解を深める。

深める①問題(3)から表される立体

正四角柱

円柱

底面が中心角 90° のおうぎ形の柱体

底面が直角二等辺三角形の三角柱



まとめ

深める②

投影図の特徴

- ・1つの方向だけでなく、視点を移動して、立体を考察することができる。
- ・立面図と平面図だけでは、表される立体が1つに決まらないこともある。

深める③

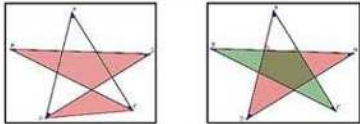
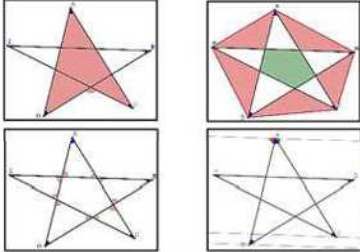
投影図と他の図

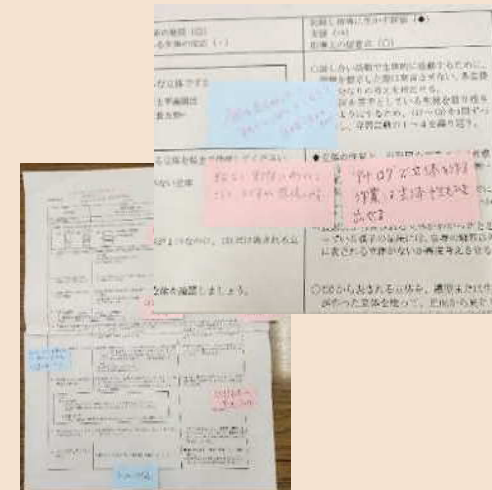
- ・見取図・展開図・投影図を組み合わせることで、立体をより正確に理解できる。



授業力向上部会より

① 研究授業の実施

展 開 4 0 分	【めあて】星形五角形の先端の角の和がいつでも 180° になる		
	4 個人で考える。		⇒図形の性質を提示する。 ○ノートやタブレット、図形アプリ等で自由に考えさせる。 ○途中から、ICTで友だちの考え方を閲覧できるようにする。
	5 グループで考える。		○小グループを編成し、自力解決と学び合いを行う環境をつくる。 【4・5・6】 ⇒(C評価に対する手立て) 色やしるしを使った簡潔な説明でもよいことを伝える。 ◇角の和の求め方を、図形の性質を基にして説明することができる。<思・判・表> (観察・ICT)
【まとめ】(星形五角形の先端の角の和が 180° になる理由は、)正しいと分かっている図形の性質を使って、いろいろ			
6 発展問題を考える。	◎次にどんなことが考えられますか。 ・六角形、七角形、…、n角形の場合 360° 、 540° 、…、 $180^\circ \times (n-4)$		⇒一人ひとりが粘り強く取り組めるよう机間指導を行う。



授業力向上部会より

①研究授業の実施（近隣小中学校と一緒に研究協議も）

	1. 授業の 準備	2. 授業の 展開	3. 授業の 評価	4. 授業の 振り返り	5. 授業の 改善	6. 授業の 実践	7. 授業の 協議	8. 授業の 評価	9. 授業の 振り返り	10. 授業の 改善
英1 語年										
国1 語年										
社会 2 学年										
数2 学年										
理3 科年										

7月14日(月) 埼玉県学力向上研究指定事業推進研究会 記録用紙

【 英語・国語・社会・理科・算数・音楽・美術・体育・保健・生活・保健・保健】

7月14日(月) 埼玉県学力向上研究指定事業推進研究会 記録用紙

【 英語・国語・社会・理科・算数・音楽・美術・体育・保健・生活・保健・保健】

1. 授業の準備

2. 授業の展開

3. 授業の評価

4. 授業の振り返り

5. 授業の改善

6. 授業の実践

7. 授業の協議

8. 授業の評価

9. 授業の振り返り

10. 授業の改善

7月14日(月) 埼玉県学力向上研究指定事業推進研究会 記録用紙

【 英語・国語・社会・理科・算数・音楽・美術・体育・保健・生活・保健・保健】

1. 授業の準備

2. 授業の展開

3. 授業の評価

4. 授業の振り返り

5. 授業の改善

6. 授業の実践

7. 授業の協議

8. 授業の評価

9. 授業の振り返り

10. 授業の改善



授業力向上部会より

② 「主体的・対話的で深い学び」 質問調査の実施

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査項目

主に
主体的な
学び

主に
対話的な
学び

主に
深い学び

教員用質問調査	
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること

児童生使用質問調査	
1	授業の始めに、今日どんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと

同じ番号の教員用の質問と児童生徒用の質問は、同じ内容について別の文で質問しています。この対応がポイントです。



令和7年度 生徒質問調査（1年生・国語・2学期中間テスト前）

こんにちは、このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

1. 授業の始めに、今日どんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと

☆☆☆☆☆

2. 授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと

☆☆☆☆☆

3. わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと

☆☆☆☆☆

タブレットを使って実施



授業力向上部会より

独自の分析グラフで実態を可視化→授業改善へ

② 「主体的・対話的で深い学び」 生徒質問調査の実施



定期テストごとにアンケートを実施→授業展開について強く意識

各学年において、複数実施しているものについてはグラフを併せています。
 左欄は対比・自己評価の状況に差があったり、前後の差があったりした場合に事前内容で確認が出来ます。



授業力向上部会より

③授業参観週間の設定

参観者用記録用紙						
日時	月	日	校時	教科	クラス	年 組
参観者				授業者	先生	
めあて						
■参観タイミング(該当するものに☑) 複数チェック可 <input type="checkbox"/> ①導入(0～10分の中) <input type="checkbox"/> ②展開(10～40分の中) <input type="checkbox"/> ③まとめ(40～50分の中)						
■授業評価・授業の感想・授業運営について(教材準備・発問・板書・生徒へ対応など)						

The collage displays several completed record sheets. Each sheet includes a header with the date, time, subject, class, and grade. The main body contains handwritten notes, often starting with 'めあて' (Objective) and '参観者' (Observer). The feedback is detailed, mentioning specific aspects of the lesson such as student engagement, teacher's questioning techniques, and the use of materials. Some sheets include checkboxes for the timing of the observation (Introduction, Development, Summary).



学習環境整備部会より

①ユニバーサルデザインの考えを共有

※参考資料→



学習環境整備部会より

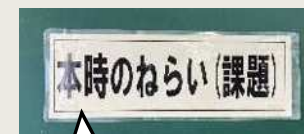
②ユニバーサルデザインの視点からの、
よりよい学習環境づくり



前面黒板の周りは
最小限の掲示物
(学校教育目標など)



戸棚には目隠し



授業のねらいを
明確化



学習環境整備部会より

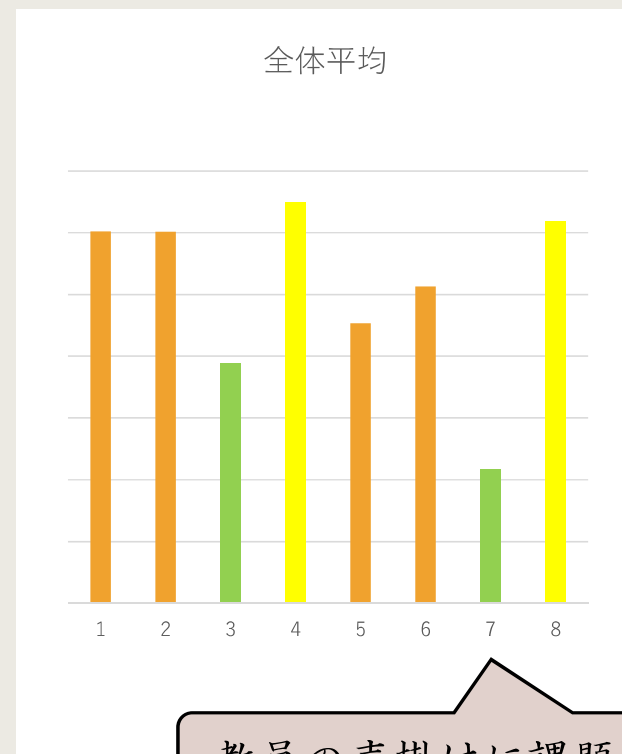
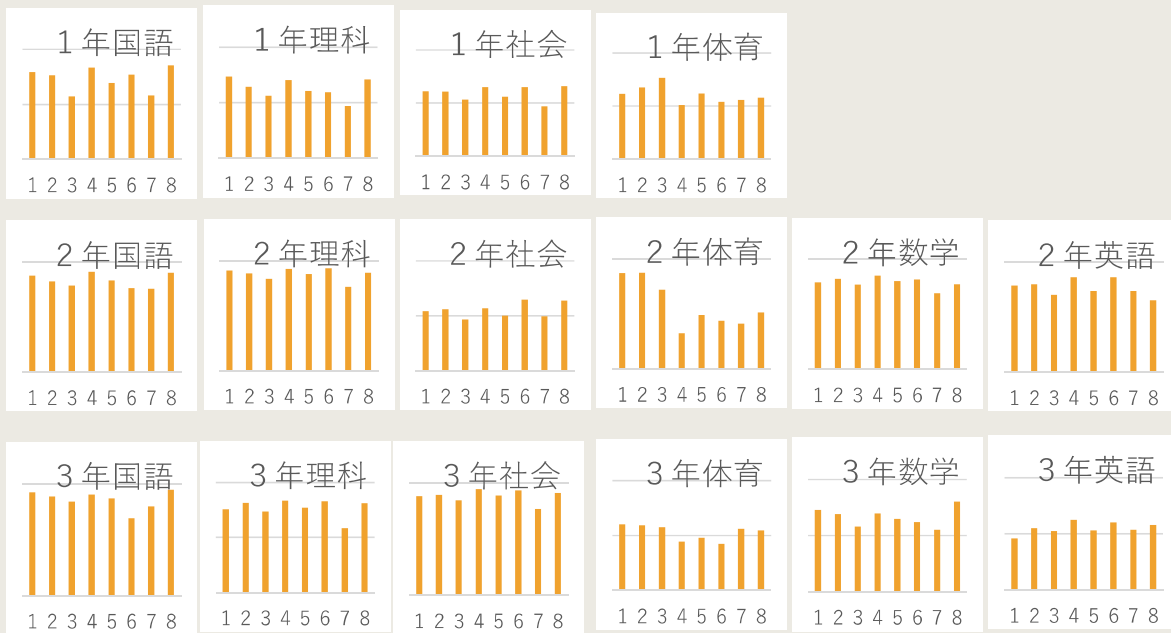
③UDチェックを各教科で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8
		授業は、めあてや課題が提示されていて、授業で何をやるかがわかる。	授業は、メリハリがあり、落ち着いて学習に取り組める。	授業での発言の仕方や話の聞き方など、授業の約束が示されている。	黒板やパワーポイントの文字の大きさやチョークの色は見やすい。	授業中の指示は、「きちんと」「ちょっと」のようなあいまいな表現ではなく、「○分」「□cm」など具体的である。	言葉だけでなく、時には絵や写真、動画等を使った、見やすく分かりやすい授業である。	授業中に先生は、個別にほめてくれたり、声をかけてくれたりする。	授業は、ペアやグループなど色々な活動があり、友達と意見や考えを聞き合える。
1年	国語	4.59	4.53	4.14	4.67	4.39	4.54	4.16	4.71
	体育	4.23	4.35	4.53	4.02	4.24	4.08	4.12	4.16
	理科	4.47	4.29	4.12	4.41	4.21	4.19	3.94	4.42
	社会	4.44	4.43	4.13	4.60	4.23	4.60	3.87	4.64
2年	国語	4.38	4.12	3.93	4.55	4.17	3.81	3.79	4.51
	社会	4.16	4.23	3.86	4.26	4.00	4.59	3.98	4.55
	数学	3.95	4.10	3.85	4.26	4.00	4.08	3.45	3.87
	英語	3.94	4.00	3.50	4.31	3.69	4.31	3.69	3.25
	理科	4.56	4.43	4.18	4.63	4.38	4.65	3.80	4.45
体育	3.87	3.87	3.72	3.32	3.49	3.44	3.41	3.51	
3年	国語	4.61	4.43	4.20	4.51	4.33	3.45	3.98	4.74
	社会	4.42	4.48	4.23	4.74	4.46	4.68	3.85	4.57
	数学	4.46	4.38	4.16	4.39	4.29	4.24	4.10	4.61
	英語	3.83	4.20	4.10	4.49	4.12	4.40	4.14	4.31
	理科	4.51	4.63	4.47	4.67	4.54	4.66	4.17	4.63
体育	4.40	4.37	4.30	3.77	3.92	3.70	4.25	4.19	
平均	4.30	4.30	4.09	4.35	4.15	4.21	3.92	4.32	



学習環境整備部会より

③UDチェックを各教科で実施



教員の声掛けに課題



学習環境整備部会より

④学習を推進するための工夫

- 定期テスト前の質問コーナー、長期休業中の自習室
- 連絡帳（アナログ、デジタル）の活用



調査分析部会より

R6結果より

- ①勉強する理由…「誰かに認められたい」
 現3年生は県平均よりも 17.6 %以上高い
 現2年生は県平均くらい (R6県学調より)
 →承認欲求を満たすことで学力向上につながる可能性

現3年生)

質問番号	質問事項										
(1)	あなたが勉強する理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください										
選択肢	1. 勉強することが楽しい、好きだから 2. 将来、役に立つから 3. 高校や大学に進学したいから 4. 先生や家の人にほめられたいから 5. 学校の友達に認められたいから 6. それ以外の理由 7. わからない										
	1	2	3	4	5	6	7	8	不明	無回答	
埼玉県	11.4	68.9	73.5	17.6	12.5	8.6	9.3		0.0	0.0	
市町村教育委員会											
貴校											
県との差											



調査分析部会より

R6結果より

- ②作業方略（ノートに書くなど作業を中心に学習を進める活動）
 - 現2，3年生ともに県平均を大きく上回っている
 - 指示された活動への取組はよくできている

現 中2 帳票40		今年度結果						
		学習方略			非認知能力			
主体的・対話 的で深い学び の実施		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
学校平均								
町平均								
県平均	3.84	3.66	3.67	3.62	3.88	3.88	3.36	3.49
県との比較								

現 中3 帳票40		今年度結果						
		学習方略			非認知能力			
主体的・対話 的で深い学び の実施		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
学校平均								
町平均								
県平均	3.80	3.61	3.51	3.51	3.78	3.54	3.18	3.67
県との比較								



調査分析部会より

R6結果より

- ③認知的方略（勉強した内容を自分の言葉で理解する）
- 現2，3年生ともに県平均を下回っている
- まとめの重要性

現 中2 帳票40	今年度結果							
	主体的・対話 的で深い学び の実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
学校平均								
町平均								
県平均	3.84	3.66	3.67	3.62	3.88	3.88	3.36	3.49
県との比較								

現 中3 帳票40	今年度結果							
	主体的・対話 的で深い学び の実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
学校平均								
町平均								
県平均	3.80	3.61	3.51	3.51	3.78	3.54	3.18	3.67
県との比較								



調査分析部会より

R6結果より

④学習習慣の確立

→保護者アンケートより

「子供は、家庭学習の習慣を身に付け、
着実に取り組んでいる」

* そう思わない	…	8%
* あまりそう思わない	…	19%
* どちらともいえない	…	22%



調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（全国学力学習状況調査）

生徒質問紙（R7中3）		当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	計
(5) 自分にはよいところがあると思いますか	学校平均			
	県平均	43.9	44.1	88
	全国平均	40.7	45.5	86.2
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	学校平均			
	県平均	55.6	39.7	95.3
	全国平均	46.6	45.6	92.2
(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか	学校平均			
	県平均	42.5	50.3	92.8
	全国平均	37.9	53.0	90.9
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	学校平均			
	県平均	34.8	46.9	81.7
	全国平均	31.4	47.8	79.2
(37) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	学校平均			
	県平均	24.9	52.8	77.7
	全国平均	20.2	50.4	70.6



調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（全国学力学習状況調査）

（5）（6）（8）について

自己肯定感の高まりの要因として、生徒たち自身による**日々の活動や行事等**を通して、責任を果たしたり、最後までやり遂げたりすることが挙げられる。また、学年職員が、給食や清掃等、生徒たちの活動を見守っており、その場ですぐに褒めたり認めたりする声掛けを行っている。その結果、次の活動への自信や意欲へとつながっていると考える。さらに、学年職員同士でも挨拶を交わしたり感謝を伝えたりして大人が範を示し、温かな雰囲気をつくっている。

（13）について

（対象の生徒は異なるが）昨年度に比べ、「当てはまる」と答えた生徒が18ポイント増え、県・全国平均も上回っている。教科を問わず授業での対話的な活動が行われ、自分の意見を含め**さまざまな意見が認められるという安心できる雰囲気**のもと、抵抗なく意見交換をすることができていると考える。意見をもとにさらに深い学びへとつなげるのが今後の課題である。

（37）について

学習内容と日常との関わりについて、国語では役に立つと感じている生徒が県・全国平均を上回ったものの、数学、理科では下回った。教科性や得手不得手の影響もあると思うが、教師自身が学びのつながりと日常に関連する**課題設定を意識**して授業を行っていくことが大事である。



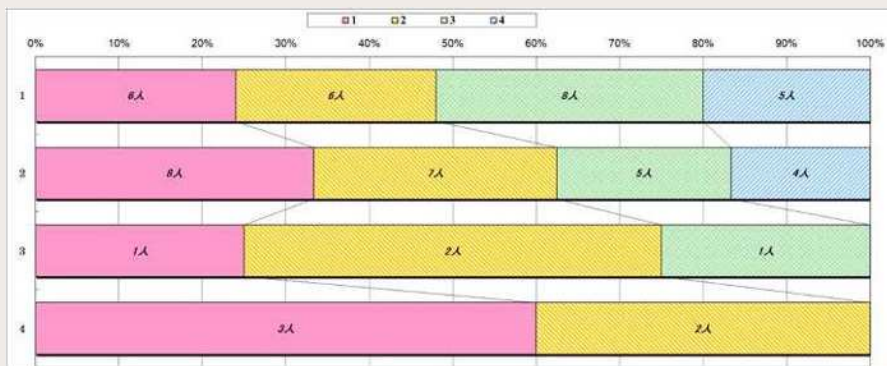
調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（埼玉県学力学習状況調査）

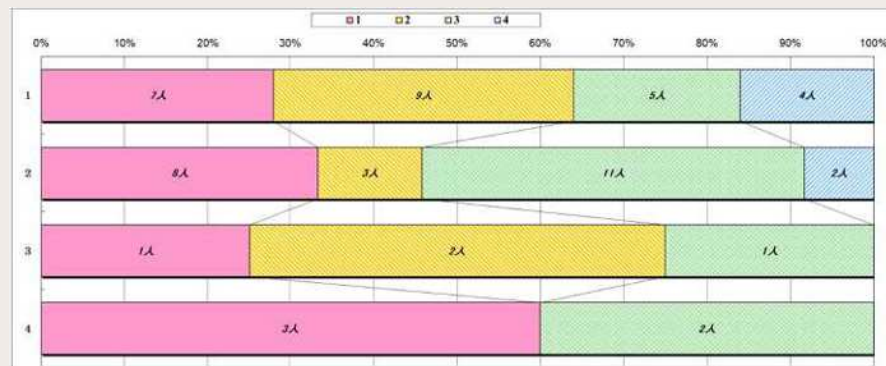
<分析支援プログラム①クロス集計『「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査』より>

縦軸：「自分にはよいところがありますか」…1思う ⇔ 4思わない

横軸：学力の伸び…左上位25% ⇔ 右下位25%



R7 (中3) 国語



R7 (中3) 数学



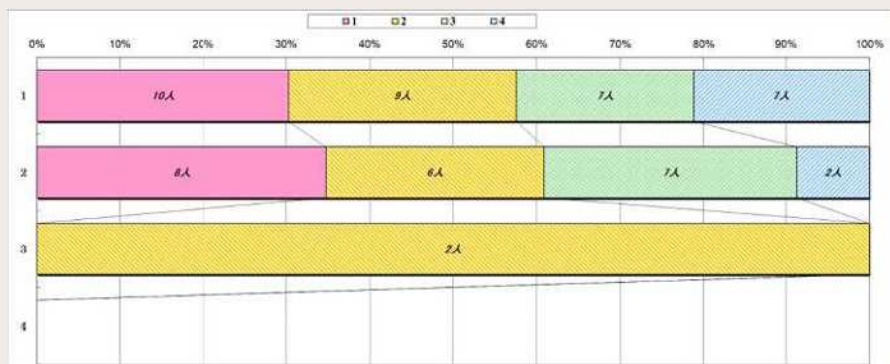
調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（埼玉県学力学習状況調査）

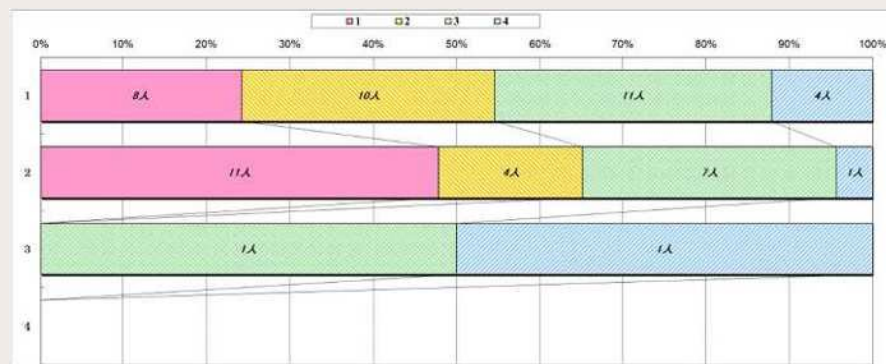
＜分析支援プログラム①クロス集計『「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査』より＞

縦軸：「学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」…1思う ⇔ 4思わない

横軸：学力の伸び…左上位25% ⇔ 右下位25%



R7 (中3) 国語



R7 (中3) 数学



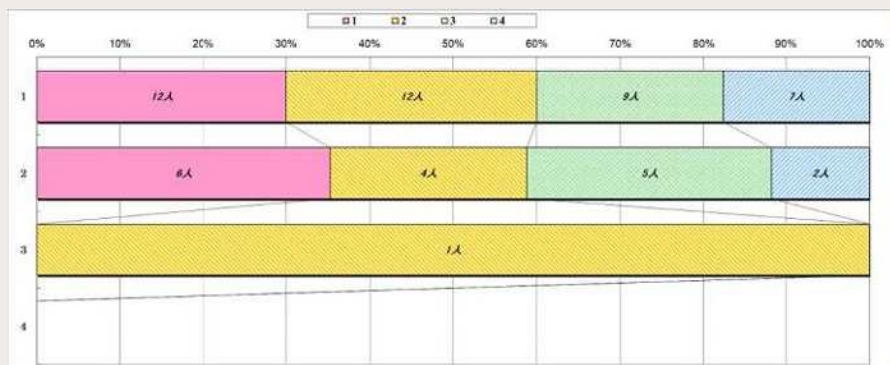
調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（埼玉県学力学習状況調査）

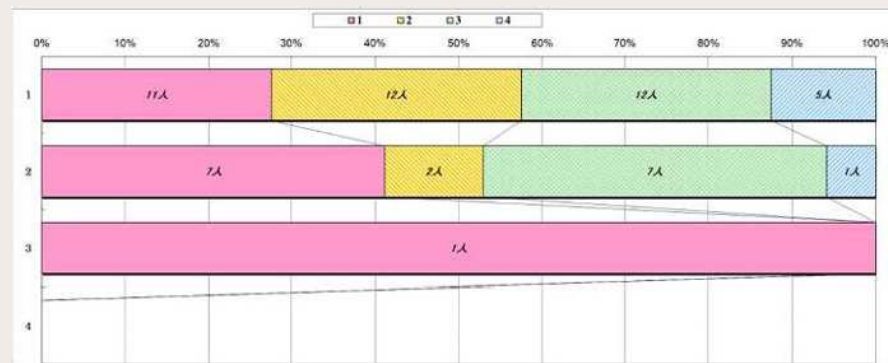
＜分析支援プログラム①クロス集計『「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査』より＞

縦軸：「学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか」…1思う ⇔ 4思わない

横軸：学力の伸び…左上位25% ⇔ 右下位25%



R7（中3）国語



R7（中3）数学



調査分析部会より

⑤令和7年度調査との比較分析（埼玉県学力学習状況調査）

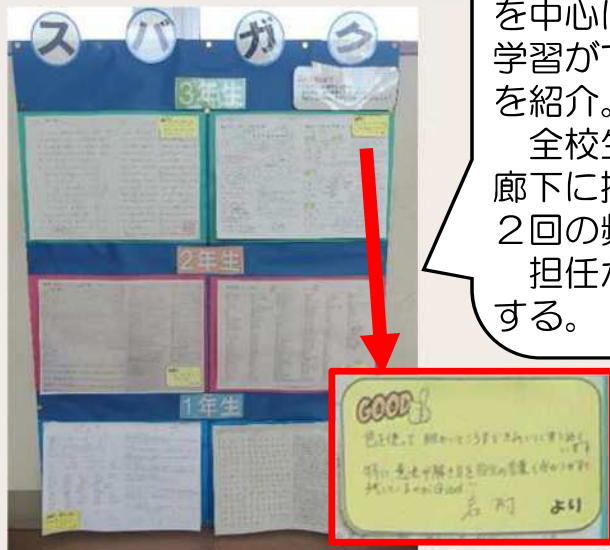
「自己効力感」や「やり抜く力」といった非認知能力の高まりが学力の伸びにつながっている傾向にあるので、自信をつけさせたり、励ましたり、考える過程を大切にしたりする声掛けが有効であると改めて認識した。また、**教師からの承認よりも、友人からの承認の方がより効果的**であると考えられることから、グループ活動やペア活動で考えを伝え合う機会を意図的につくり、学びを深めていくことが有効であると考えます。



調査分析部会より

⑥自己肯定感の向上（生徒の取組の見える化）

【スバガク】



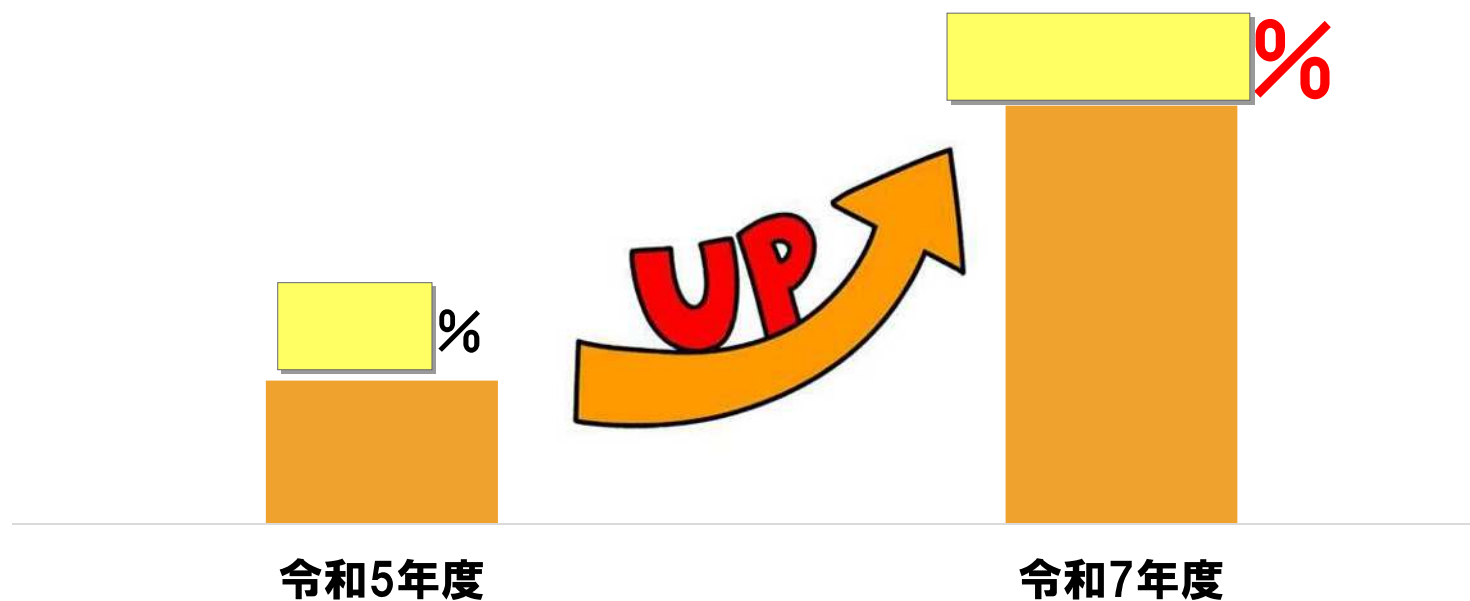
“素晴らしい学習”の略称。自主学習ノートを中心に、素晴らしい学習ができている生徒を紹介。
全校生徒が通る渡り廊下に掲示し、月1～2回の頻度で更新する。
担任が良い点を記述する。

【生徒作品の掲示】



成果と課題

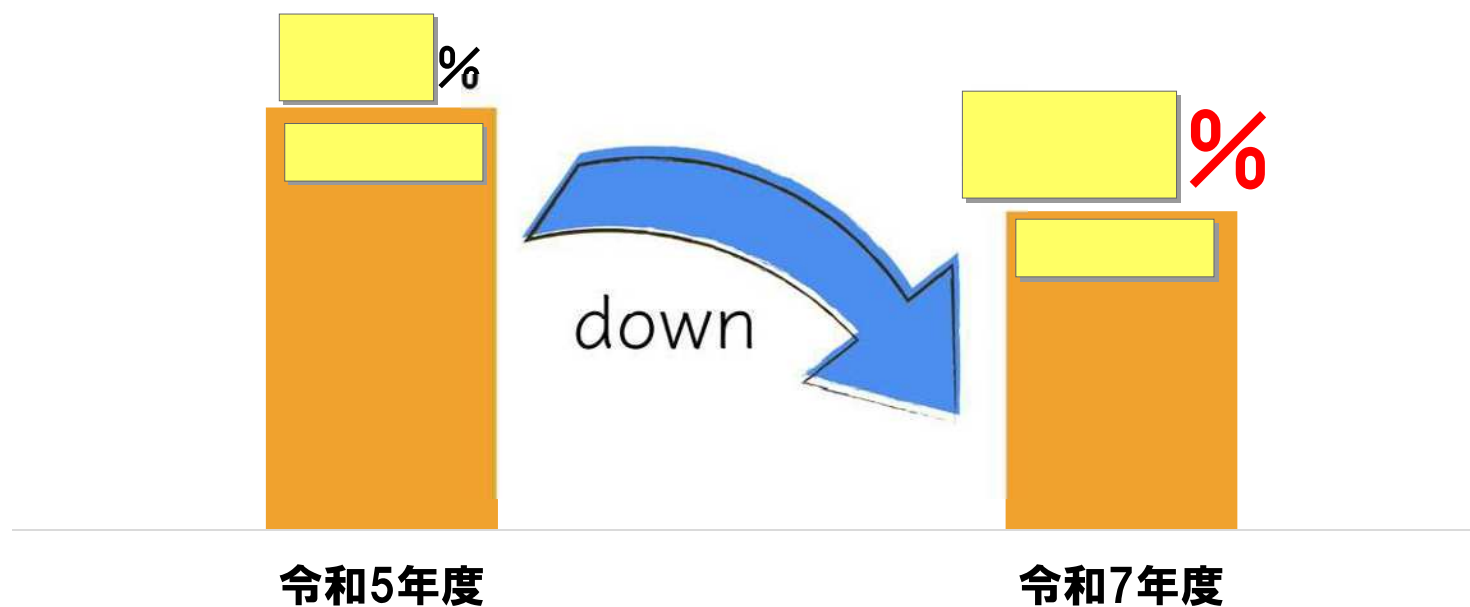
「学校は楽しいですか」（生活アンケートより）
→ 「そう思う」「だいたいそう思う」



成果と課題

長期欠席者（月7日、年間30日以上）

※4～10月まで



成果と課題

(学力レベル・R7 埼玉県学力学習状況調査より)

<中1・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R7中1 レベル
埼玉県	353	42,786	62.5	8-C
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中2・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R6中1 レベル	R7中2 レベル	伸び
埼玉県	353	41,537	54.6	7-A	8-C	1
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中3・国語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R6中2 レベル	R7中3 レベル	伸び
埼玉県	353	42,576	57.0	8-C	8-A	2
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中1・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R7中1 レベル
埼玉県	353	42,791	52.0	6-A
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中2・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R6中1 レベル	R7中2 レベル	伸び
埼玉県	353	41,532	51.5	6-B	7-A	4
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中3・数学>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R6中2 レベル	R7中3 レベル	伸び
埼玉県	353	42,553	56.7	7-A	8-B	2
市町村教育委員会						
菅谷中						

<中2・英語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R7中2 レベル
埼玉県	353	41,522	60.2	9-C
市町村教育委員会				
菅谷中				

<中3・英語>

	学校数	児童生徒数	平均 正答率	R6中2 レベル	R7中3 レベル	伸び
埼玉県	353	42,549	51.5	9-C	10-C	3
市町村教育委員会						
菅谷中						

◆中3国語は同レベル、中3英語は県平均を上回る



成果と課題

(伸びの割合・R7 埼玉県学力学習状況調査より)

1年	国語		数学	
学校名	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
埼玉県	83.1	16.9	66.5	33.5
市町村				
菅谷中				

2年	国語		数学	
学校名	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
埼玉県	64.5	35.5	84.6	15.4
市町村				
菅谷中				

3年	国語		数学		英語	
学校名	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合	伸び○割合	伸び×割合
埼玉県	74.5	25.5	63.8	36.2	81.8	18.2
市町村						
菅谷中						

◆中3はすべての教科で伸びの割合が県平均を上回る



成果と課題

現 中1 帳票40	今年度結果							
	主体的・対話的 で深い学びの実 施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
学校平均								
町平均								
県平均	4.08	3.69	3.66	3.60	3.96	3.77	3.38	3.00
県との比較								

現 中2 帳票40	今年度結果							
	主体的・対話的 で深い学びの実 施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
学校平均								
町平均								
県平均	3.92	3.62	3.53	3.51	3.82	3.56	3.19	3.99
県との比較								

現 中3 帳票40	今年度結果							
	主体的・対話的 で深い学びの実 施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
学校平均								
町平均								
県平均	3.96	3.70	3.55	3.62	3.91	3.51	3.21	3.66
県との比較								

令和5年度から令和6年度にかけて課題だった「認知的方略」に対して、現2年生は県平均を大きく上回った。現3年生も前年度からの変化量では県平均を上回った。
また、「自己効力感」はすべての学年で県平均を上回った。



成果と課題

<成果>

- 学校を“楽しい”と感じる生徒の割合が増えた。
- 長期欠席者の割合が減った。
- 日々の生活の中で生徒を“個”として認める活動をすることで、一人ひとりの自己効力感が増した。
- 教員と生徒の授業に対する意識の乖離を把握することができた。

<課題、今後に向けて>

- 基礎学力の十分な定着には届かなかった。
- 授業をするうえで教員と生徒の意識の乖離を改善することが必要。
- 継続的な活動が必要なので、引き続き生徒を主語にした活動を推進する。



令和7年度
学力向上推進協議会
嵐山町の取組

嵐山町教育委員会

研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(1) 学力向上指定事業における授業研究会の計画

指定校：嵐山町立菅谷中学校

第1回 4月21日（月）

講義 学力向上を目指す授業づくりについて

第2回 7月14日（月）

授業研究会 各教科における授業力向上に向けて

第3回 10月20日（月）

授業研究 数学科における授業力の向上

第4回 11月17日（月）

授業研究 社会科における授業力の向上

研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(1) 学力向上指定事業における授業研究会の計画

指定校：嵐山町立菅谷中学校

第1回 4月21日（月）

講義 学力向上を目指す授業づくりについて

第2回 7月14日（月）

授業研究会 各教科における授業力向上に向けて

第3回 10月20日（月）

授業研究 数学科における授業力の向上

第4回 11月17日（月）

授業研究 社会科における授業力の向上

研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(2) 第2回 授業研究会の取組

目的：現在求められている授業の在り方を研究・共有すること

内容：各教科の指導者による「主体的・対話的で深い学び」の授業についての指導をいただく。

日程：14：00～14：50 授業研究会

15：10～15：20 全体会（校内放送）

15：20～16：30 研究協議会（各教科）

その他：菅谷中学校の職員だけでなく、菅谷班教育研究会

（嵐山町・滑川町）にも案内をして参加を呼びかけた。

研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(2) 第2回 授業研究会の取組

指導者：

国語	県教育局義務教育指導課指導主事	田中 速夫 様
社会	嵐山町教育委員会 指導主事	吉井 大輔 様
数学	県教育局義務教育指導課指導主事	高橋 育秀 様
理科	県教育局西部教育事務所指導主事	渡壁 誠 様
外国語	県教育局西部教育事務所指導主事	山井 葉里子様
音楽	県教育局西部教育事務所指導主事	新井 優 様
	県教育局西部教育事務所指導主事	山崎 寛幸 様
	県教育局西部教育事務所指導主事	不破 克人 様

研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(2) 第2回 授業研究会の取組

国語 田中速夫 指導主事



社会
吉井大輔
指導主事



数学
高橋育秀
指導主事



研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(2) 第2回 授業研究会の取組

理科 渡壁 誠 指導主事



外国語
山井葉里子
指導主事



音楽
新井 優
指導主事



研究校の実践と嵐山町の教育の関わり

(3) 研究校との関わりを通して

- ①研究校と町教委が連携をすることで様々な教科の指導者を招き、今求められている授業について1学期に研修を行えた。
- ②特に5教科のみならず、音楽といった実技教科でも主体的・対話的で深い学びを目指す授業について協議することができた。
- ③研究校のみの研修とならず、町内、隣町の教職員も研修に参加できた。